

阿岐のまほろば

Vol. 8

2000年前の火事場！

吹越遺跡（八本松東四丁目）



焼けた住居

吹越遺跡は、八本松東と西条町寺家の境に位置する弥生時代の遺跡です。

住宅団地の開発に伴って、平成8年10月から11月まで発掘調査を行いました。場所は、西から東に延びる尾根が緩斜面になるところで、以前からこの付近に遺跡があることは知られていました。

調査では、竪穴住居1軒と土壇4基が見つかりました。この住居は、本来は数10cm掘り込んで壁を造っていたと思われますが、削平されて8cm程しか残っていませんでした。また、この住居は火事に遭ったのか、床面に炭化した木材が散らばっていて、床の土も焼けて赤く変色していました。

この住居の中からは、よく使い込んだ砥石が1点出土しているだけで、他の土器等は見つかって

いません。

2000年前のある日、家に火の付いた弥生人は、家財道具を持って逃げ出したのでしょうか。



吹越遺跡位置図（1:50,000）

石剣を転用した石斧

小越遺跡 (志和町志和東)



石剣を転用した石斧



石斧出土状況

小越遺跡は、平成8年10月まで発掘調査し、現在は整理作業を進めています。この遺跡の焼失家屋の壁際から、石斧が1点出土しています。これは、折れた石の剣の先端を利用し、折れた部分を磨いてつくられています。剣の刃の部分は最初から潰れてあったので、武器としてではなく祭祀に用いられていたもののようです。色合いは緑錆をふいた青銅器によく似た青緑色で、当時の人の青銅器に対する憧れを示しているかのようです。



小越遺跡位置図 (1:50,000)

江戸時代の西条

山崎 2 号遺跡 (西条西本町)



山崎 2 号遺跡は、西条西本町に所在し、西条中央巡回線改良工事に伴って平成 8 年 10 月から平成 9 年 3 月まで発掘調査を実施しました。

遺構は、江戸時代の掘立柱建物跡、土塙、溝状遺構などが見つかりました。

掘立柱建物跡は、主に 1 間×1 間、1 間×2 間の大きさです。柱穴の大きさなどから考えて作業小屋ではないかと考えられます。

土塙は、30 基ほど見つかりました。ほとんどがどのような目的で使っていたかは不明ですが、なかには、井戸や甕を埋めたものもありました。

遺物は、陶磁器、土師質土器、漆碗などの食器類の他に、鉄滓やフイゴの羽口などの鍛冶に関係するものも出土しています。

今回の調査で山崎 2 号遺跡は、江戸時代の遺跡であったことが分かりました。

今も昔も、この周辺は街中だったのでしょう。



山崎 2 号遺跡位置図 (1:50,000)



Figure 10-1-1 shows a close-up view of a rock surface with prominent, parallel, horizontal grooves or ridges. These features are characteristic of a glacial or tectonic process, such as glacial abrasion or tectonic shearing. The rock is light-colored, and the grooves are darker, indicating erosion or deposition. The grooves are closely spaced and run horizontally across the frame.

平成9年4月から継続して調査を行う予定なので、今後の成果によって遺跡の全容が解明されることでしょう。

印刷 株式会社 ニシキプリント